

2018年

白百合女子大学

公開講座

「子育てについて」

本学名誉教授 繁多 進先生

「芭蕉の生涯」

本学名誉教授 田中 善信先生

「西洋絵画を読み解く」

本学名誉教授 上田 欽一郎先生

「北原白秋の世界」

本学名誉教授 宮澤 賢治先生

「アメリカ文化とアメリカ文学に

見る実像と虚像」

本学名誉教授 土屋 宏之先生

【日程】

5月19日(土) 6月2日(土)
6月16日(土) 6月30日(土)
7月7日(土) 7月21日(土)

※全6回

【受講料】

1講座（全6回）につき5,000円
1講座1回のみ受講の場合1,000円

【お問合せ先】

白百合女子大学
セントポール・コイノニアルーム
担当：山口（火～金 10:00～17:00）
TEL/03-3326-5050（代表）

百年の教養と百年の幸福のために

白百合女子大学 学長 田畑 邦治



人生百年と言われる時代に入りました。私たち人間は生物としての「ヒト」の時間を超えて、より豊かで持続性のある「人間」としての幸せと成長を願っています。しかし、文明の発展は必ずしも長い人生の指針を約束してくれません。いつかやってくるかもしれない様々な苦難や離別、病や死、あるいは瞬時に判断を下したり、解決しなければならない問題に遭遇したりするとき、助けとなるのは、真の「教養」です。教養は人生の飾りではなく、私たちのいのちと精神を養い、希望の芽生えを促し、一生を支える基盤となるものです。

本学ではこれまでもミッションスクールとしての特性を生かした「宗教講座」を行ってきましたが、このたび、より広く、人生の多様な側面に触れる「教養講座」を開講します。本学での長い経験と豊かな人生経験をお持ちの講師陣による五つの連続講座を準備しました。

私たち白百合女子大学では、これまでの伝統に根づきながら、新しい時代を前向きに生きる、自由で喜ばしい知恵を皆さんと分かち合いたいと願っております。

[10:00~12:00]

「子育てについて」

繁多 進先生（本学名誉教授）

赤ちゃんから高校生くらいまでの子育てについての講義をします。

- 第1回 「子供の発達の過程と今日の発達環境」
- 第2回 「乳幼児期の発達と愛着の形成」
- 第3回 「乳幼児期の生じがちな問題とその対処法」
- 第4回 「児童期、思春期の発達と親子関係」
- 第5回 「児童期、思春期の生じがちな問題とその対処法」
- 第6回 「子育ての基本についてのまとめと質疑応答」

[14:00~16:00]

「北原白秋の世界」

宮澤 賢治先生（本学名誉教授）

絢爛華美な白秋の世界。九州、柳河に生まれ神童と呼ばれ、若くからその才能をほしのままにした彼の生き方、作品の世界に分け入ってみましょう。

- 第1回 九州、柳河という風土と白秋について
- 第2回 試練と恋の明星派について
- 第3回 白秋短歌の開花とその展開について
- 第4回 白秋童謡・児童詞・詩の展開について
- 第5回 白秋の俳句、小歌、校歌、民謡について
- 第6回 北原白秋とは何者だったのか

[10:00~12:00]

「芭蕉の生涯」

田中 善信先生（本学名誉教授）

芭蕉の生涯にはいまだに解明されていない謎が多い。その謎について考えながら、俳人として大成していく芭蕉の生涯をたどります。

- 第1回 「芭蕉の生家」 不明のままに残されている生家の実態を探る
- 第2回 「江戸での生活」 深川移住の謎を考える
- 第3回 「俳人芭蕉」 異端の俳諧師として生きた後半生
- 第4回 「芭蕉の旅」 旅の実体と目的を考える
- 第5回 「おくのほそ道」 執筆の意図と後世への影響について考える
- 第6回 「芭蕉没後」 なぜ芭蕉が俳聖と呼ばれるようになったのか

[14:00~16:00]

「アメリカ文化とアメリカ文学に見る実像と虚像」

土屋 宏之先生（本学名誉教授）

アメリカ文化(映画も含む)と 文学に見る実像と虚像を、活字と映像を通して考察します。毎回、配布される講義内容をまとめたプリントが主たる教材となります。

- 第1回 「ハリウッド100年史の光と闇」
- 第2回 「ウィリアム・インジ戯曲『ピクニック』が描く田舎町」
- 第3回 「小説『エルマー・ガントリー』におけるペテン師」
- 第4回 「ジョン・フォード監督の騎兵隊3部作に描かれた『共同体』と『先住民(インディアン)』」
- 第5回 「ジョージ・スティーブンス監督のいわえるアメリカ3部作に見る夢と悪夢」
- 第6回 「19世紀の長編と短編小説が描く女性教師像」

[10:00~12:00]

「西洋絵画を読み解く」

上田 欽一郎先生（本学名誉教授）

フランスを中心に各流派の代表者と代表作を取り上げ、図像を見ながら〈沈黙の言語〉としての絵画を読み解いてゆきます。

- 第1回 〈ルネッサンス/バロック〉:レオナルド『モナリザ』、ラファエッロ『小椅子の聖母』/カラヴァッジョ『聖マタイの召命』、フェルメール『絵画芸術の寓意』
- 第2回 〈古典主義/ロココ〉:ブッサン『アルカディアの牧人』、ヴァトール『シテール島への巡礼』
- 第3回 〈新古典主義/ロマン主義/写実主義〉:ダヴィッド『皇帝ナポレオン1世と皇妃ジョセフィーヌの戴冠』、アングル『グランド・オダリスク』/ドラクロワ『民衆を導く自由の女神』、クルーベ『オルナンの埋葬』
- 第4回 〈バルビゾン派/印象派〉:ミレー『晩鐘』、モネ『睡蓮の池』、ドガ『舞台の踊り子』
- 第5回 〈ポスト印象派/象徴主義〉:ゴッホ『星月夜』、セザンヌ『リンゴとオレンジ』、ルドン『眼を閉じて』
- 第6回 〈フォーヴィズム(野獣派)/キュビズム(立体派)/素朴派〉:マティス『ダンス』/ピカソ『アヴィニオンの娘たち』/ルソー『蛇使い』